

## 2 主体性

## 視点⑤ 自分の考えや思いを表す言葉から

興味の対象に、魅力や不思議さを感じて夢中になって関わる子どもたちは、探求を深めていきます。大人より敏感に、環境や興味の対象の変化や違いに気付くことのできる乳幼児期の子どもたちは、興味の対象に心を動かし、感じたこと、気付いたこと、考えたことなどを言動に表し発信しています。子どもが考えや思いを自ら表している言動を視点にすることで、遊びを通して育まれる「科学する心」を読み取ることができます。

以下の事例では、子どもの言葉から、「みんなで作った雑草山への関心が高く、子どもたちが雑草山の動植物をよく観察し大切にしている」ことが分かります。天候による違い、虫の種類や虫の棲み分け、虫の成長や命を大切に方法など、気付いたことや考えを自分たちで伝え合っている言葉から、探求が深まり「科学する心」が育まれている子どもたちの体験を読み取れます。

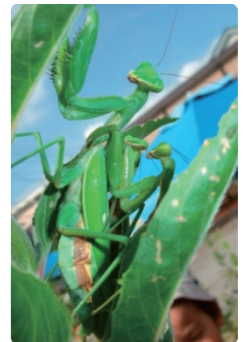
## 「2種類のカマキリが棲んでいるんだ！」 5歳児 社会福祉法人砂原母の会 砂原保育園

園庭の中央に土山を造り、子どもや保護者、保育者みんなでいろいろな植物を植えて雑草山にする。飼育ケースで孵化したカマキリを雑草山に逃がす。(5月)

- ・しばらくして、子どもたちは少し大きくなったカマキリを見付ける。図鑑を見て「筆を使って虫を移動させると小さな体が弱らない」と分かったら、筆で小さなカマキリを飼育ケースに入れて観察する。
- ・7月、「**雨の次の日は地面に虫がいるよ**」と友達に言い、雑草山に行って目を凝らして探す。小さなバッタを見付ける。しばらく観察すると雑草山に逃がす。

考えていることを言い表し、行動する。

9月、雑草山で成長したカマキリはハラビロカマキリだと分かる。カマキリ3匹が重なり合っているところを見付ける。「交尾かな?」と、予想しながら観察する。  
「メスはお腹がすいているとオスを食べる時がある」と話題になったことで知っているの、1時間以上その場で見入っている。  
翌日、メスがオスを食べる場所を目の当たりにし注目する。



発見したことや知っている情報を伝える。

A児はカマキリを見付け、「**チョウセンカマキリだよ**」とみんなに伝える。A児はカマキリに興味をもって毎日のように図鑑を見ていたので、カマキリの種類が分かっている。みんなで図鑑を見て、腹部の色や前足の部分など、ハラビロカマキリとの違いを確認する。  
A児は「**雑草山には2種類のカマキリが住んでいるんだ。道路側にはハラビロカマキリ。保育園の方にはチョウセンカマキリ**」と、雑草山の中でもカマキリが棲み分けていることをみんなに話す。

森でカマキリの卵を見つけたB児は、園に卵を持ち帰ろうとせずに、保育者に「**これは何という植物?これを雑草山に植えたい!**」と言う。

自分の考えを伝える。



自分の考えを伝える。

B児はすぐに植物図鑑でシロナンテンという名前を見付ける。そして、「**カマキリはこのシロナンテンに卵を産み付けている。だから、雑草山にこれを植えれば、きっとカマキリは卵を産むはず**」と言う。

(関連事例P23、28)